

『存在と時間』の学問的研究と存在論的尋求（発表要旨）

田中 敦

『存在と時間』が20世紀の哲学書で最も多く研究されているものの一つであることは間違いなく、古典と言われてよいであろう。古典であるということは著者の意図や主張から独立し、様々な問題の関連で考察されて当然であるということができる。他方、『存在と時間』を理解する点で、そこで論じられている問題に関して言えば、特に注意すべき問題が提出されていると言える。それは古代ギリシアから近世にいたる西洋哲学の歴史を通して存在の問いが忘却されているという指摘であり、それ故に改めて存在の問いを具体的に詳論することが求められるのである。

この問題との関連で、存在を究明し論述するための語彙が不足しており、更にその文法が欠けていることが述べられている。しかし同時に、その論述で用いられる語の意味理解に必要な条件も述べられている。それは存在の問いを自己の実存的な可能性としてつかみ取るという制約であり、それなしには実存規定としての語はその意味を示さないとされるのである。

それだけではない。『存在と時間』が二部から構成されるとされたのは存在の問いが二つの課題に分枝することに基づいているのである。それは存在の問いが諸学問の可能性のア・プリオリな制約に向けてと共に存在論の可能性の制約に向けられているということに基づくからである。

ハイデggerがナトルプによる現象学の記述に対する批判を取り上げている1919年戦時緊急学期の講義に於ては、現象学の学問性の厳密さは派生的な諸学問のそれとは比較にならないと言われている。そして1927年の講演「現象学と神学」では、諸学問と存在論の間には絶対的な違いがあるとまで述べられている。更にこの講演では哲学が哲学であるための制約が述べられているということも重要である。その要点だけを言えば、神学以外の諸学問に対して哲学はそれ自身の本質に基づいて指導（Direktion）を為すという課題を有しているというのである。

ところで、絶対的に違う関係にあるとされる存在論と諸学問の間で、一方が他方に指導という働きを行うということは普通考えるとあり得ないことである。この点で、『存在と時間』が現象学の記述を徹底して遂行しているという点の理解が不可欠となると考えてよい。まず第一に、学問は現存在の存在様式として規定されている。第二にプラトン・アリストテレスの活動に言及しつつ、産出的論理学が一定の存在領分に先立って飛び込み、実定的諸学問がその探求をなし得るようにすることが述べられている。それは哲学が諸学問と無関係にその働きを行っているのではないことを明らかにしている。第三に現象学の規定がなされるところで、現象学の学、ロゴスがアポパイネスタイという中動相として捉えなおされ、更に「共に語り合う者にも」現象そのものがそれ自身を示すということが述べられている。こうしたことを確認したうえで、存在論と諸学問の可能な関係を考えるとどうなるであろうか。

存在論にとって他者となる諸学問は顧慮という存在様式で出会われていることになる。そして顧慮についての分析に於て、ハイデッガーが二つの極端な様式を述べていることはよく知られている。一つは他者の関心をいわば奪い取り、配慮に関して他者にとって代わり、他者の身代わりとして支配するような顧慮であり、他方は他者に対して先んじて飛び込むことで、他者にその関心をそのものとして与え返すような、そして産出的論理学がそうであったように先んじて飛び込み解放する顧慮と述べられている。この後者の場合、解放となるかどうかはどこまでも他者つまり諸学問の側の問題であって、存在論がそのことのために何らかの行為を付加的に行うのではないのである。

更に諸学問と存在論との絶対的な違いが無関係と同じでないという点も考える必要がある。『存在と時間』が書かれた同時代の諸学問の状況を述べる箇所では「学問の本来の動き」が諸学問の基礎の危機に即して捉えられている。ハイデッガーはその事態を諸学問が哲学的傾向を持つこととも述べている。これは言葉の上での問題でなく、記述されている事象そのものの理解の問題である。諸学問の基礎の危機は丁度産出的論理学が諸学問に対する関わり方と同じであるということができよう。

この問題を考えるうえで企投の非性の理解が重要である。現存在の自由は一つの可能性を選択すること、即ち他の可能性を選び得ないことにあるという有限性である。このことが取り上げられている繋がりから、存在の問いを問うことにおける企投の選びが問題となっていると言える。存在の問いを問い直そうとする『存在と時間』を理解するうえで、学問に対する批判を避け、学問的な解明を選択するとしたら、少なくとも存在の問い求め、尋求に近づくことは不可能だということを、この分析から理解することができるであろう。